



参議院議員

大野もとひろ

号外・埼玉県参議院選挙区第5総支部版 N0.12

発行：民主党プレス民主編集部

〒100-0014 東京都千代田区永田町1-11-1 TEL03-3595-9988(代表)

編集：参議院議員大野もとひろ事務所

〒332-0017 埼玉県川口市栄町2-1-11-103 mailsangiin.oono@gmail.com

TEL048-271-5252 FAX048-271-5200 HP: http://www.oonomotohiro.jp



予算委員会にて、アルジェリアのテロ事件
について、政府の取り組みの甘さを指摘



即戦力!
突破力!
実行中

平成二十五年一月二八日より六月二六日まで招集された第一八三回通常国会、参議院選挙を経て八月七日まで開催された第一八四回臨時国会と、小生にとり初めて野党としての国会が開催されました。

今夏の第二十三回参議院議員選挙の結果は、民主党にとって厳しい結果でございました。ご支援を頂いた皆様に深く感謝申し上げます。この結果を真摯に受け止め、初心に帰り、日本が直面する多くの問題に対し「即戦力!突破力!」、変わらざる積極的に取り組んでまいります。

暑さ厳しい折、お身体ご自愛ください。

大野もとひろ

政府の危機管理体制を追及

大野もとひろ議員は、待つたなしの首都直下地震のバックアップ体制構築、サイバーテロ対処において、三年前に参議院議員に当選以来、日本の危機管理体制構築について真正面から取り組み、実績を上げて参りました。

殺害事件に際し、現地語であるアラビア語を話す人員を誰一人として送らなかつたこと、米英と比較して政府機を送るのが大幅に遅れたこと等を指摘し、安倍政権の危機管理体制の甘さを厳しく糾弾しました。

八月一〇日の沖縄のキャンプ・ハンセンでの米空軍ヘリ墜落を受け、国会が休会中であつても現場で問題に対処すると、翌週には沖縄を訪問し調査にあたりました。現地では、沖縄防衛局から政府関係諸機関や自治体への連絡が大幅に遅れ、マスコミ報道が先行したところ、米軍が違法に設定したキャンプ・ハンセン上空飛行制限の「ノータム」について、防衛局から国土交通省への照会フォローがされ

ていないこと等、重大な問題を発見しました。今後、この件が、国会で取り上げられるでしょう。

その一方で、大野もとひろ議員は、批判するだけの野党であつてはならないと主張し、米国総領事や沖縄防衛局長に対し、住民の皆さんの不安を解消するためには、可能な限り具体的な事実を示して理解を得、日米同盟を円滑に機能させる努力が必要とアドバイスしてきたそうです。

たとえば、墜落したヘリに放射性物質ストロンチウム90が使用されているとの疑いに関して、「米軍として使用していないとの報告を得た」と言うのみならず、三菱重工社がこのヘリを基にUH-60を生産しているが、その際に入手した仕様書を地元自治体へ開示し、情報提供をしてはどうか、と提案しました。また、連絡体制や情報収集の遅れを反省するのみならず、早急に防衛省を中心に調査を進めるべしと提言してきてたのです。大野もとひろ議員は、これからも日本の安全保障のために活動してまいります。



外交の大野、加速中!

大野もとひろ参議院議員は、当選以来、その専門性を活かして外交・安全保障分野にも力を入れてきました。外交については、今年だけでもワシントン(米国)、ベルギー、カタール、韓国、台湾を訪問しました。この夏にも、タイ、韓国、フランス、ガーナ、ブルキナ・ファソを訪問し、国際化が進む中で日本の国益を最大化するための活動に邁進するそうです。

原子力協定締結に盲目的に進む政府に対し、米国がNPT未加盟のインドとの協定を締結する際、別途インドに不拡散の約束をさせたことを指摘し、我が国の原子力不拡散に対する立場との整合性について鋭く切り込んでいました。

また、シリア情勢に積極的に取り組むため、国際会議の席で各国がシリアの反体制派とコンタクトする中で、我が国が接触すらしていなかった問題を明らかにしました。

拉致問題も忘れてはならない!

現在も北朝鮮による国際社会への挑発行為は継続していますが、我々が決して後回しにしてはならないのは、拉致問題の早期解決への取組です。

安倍政権になってから、飯島内閣府参与による北朝鮮訪問がありました。朝鮮外交のごとく、ふんぞり返る北朝鮮側高官の前でこうべをたれた飯島参与は、朝鮮総連幹部一同と同じ航空機で平壤を訪問していました。この訪問のあり方を伺い、訪問を拉致被害者の帰国に結びつけるためには、政府に対する監視役として

国会の役割が不可欠です。

しかし政府与党は、北朝鮮による拉致問題等に関する特別委員会(拉致特)の開催要求から逃げ回りました。これに対して、拉致特の理事を務める大野もとひろ議員は、与党に毎日のように働きかけを行いました。今年になって一度も審議を行わない拉致特を、与党の欠席の中開会する強硬手段も辞さないとのぎりぎりのやりとりを行った結果、総理、官房長官、飯島参与は出席しないとの条件つきで六月一二日に審議を行わせたのです。もちろん、この一回

だけで十分な審議はつくせておらず、不満足な結果です。

しかしながら大野もとひろ議員は、拉致問題を重大な国民的関心事と位置づけ、外交防衛委員会においても追及し、外交の責任者と自ら主張する岸田外相に対し、訪朝した飯島参与と直接会い事情を聴取すると共に、拉致問題に日本側が一丸となつて取り組むべきと二回に亘り求めたのでした。現在でも参与への聴取は行われていませんが、拉致を未解決のまま放置してはなりません。強い思いで、大野議員は拉致問題にも取り組むそうです。

円安誘導に一言、

中小企業対策・観光客誘致を

安倍政権が進める円安誘導に対しても、国際的視点から指摘を行いました。昨年の衆議院選挙以来、円建て原油価格は四割以上も上昇し、特に中小企業や消費者に大きな負担となつていきます。このようなエネルギー輸入価格上昇に対し、悪影響

響の緩和策を政府に強く求めると共に、円安のメリットをより積極的に享受できる措置を求めたのです。つまり、円安のメリットを活かして日本を訪問する観光客が増えているにもかかわらず、在外の大使館や総領事館のビザ発給を行う体制

が貧弱であることを指摘し、政府の早急な改善措置を求め、岸田大臣から言質を引き出したのです。まさに、元外交官ならではの視点を活かした大野もとひろ議員らしい指摘でありました。

党務にも積極的に関与、

着実な成果

通常国会および臨時国会を通じて、大野もとひろ議員は、これまでになく、党務に深く関わることとなりました。

昨年から継続している国

際局の副局長として、専門性を活かした活動を実施し、特にアラブ諸国から要人が来ると、大野議員への面会は不可欠なものになりました。また、「次の内閣」の外務副大臣、安全保障研究会の事務局次長としても積極的な活動を続けており、集団的自衛権やマイナー自衛権に関する研究の中心的存在となっています。

その一方で、大野もとひろ議員には全く新たな役割も与えられており、その一つが党幹事長室改革創生本部における「改革創生案」のとりまとめでした。衆議院議員選挙における歴史的な大敗を受けて民主党は、「二からの出直し」を誓い、細野幹事長の下に改革創生本部を設けました。大野もとひろ議員は、そこにおける中心メンバーとして、二〇〇名以上の方々から民

主党に対する意見を聴取し、毎晩遅くまでかけてそれととりまとめた案を執筆しました。これが二月に党大会で承認を受け、「改革創生案」となったのです。

その後、この案に基づく実施確認等の役割や規則の策定等に取り組んだ大野議員は、「失われてしまった、かつての自民党経世会や宏池会から社会党右派にいたる中道の受け皿を失うことは、日本にとつての損失であり、自民党と切磋琢磨する二大政党制を確立し、日本を前に進めるためにも民主党の再生は不可欠である」と述べて、活躍しました。仲間の議員や党職員からは「大野はいつ寝ているのか」といふかられる献身ぶりでした。現在、野党再編等もマスコミで取り上げられていますが、日本の政治の進む方向がどうなるかと、このような真摯な政党政治に対する大野もとひろ議員の取組は、いつの日か必ずや、実を結ぶことになるでしょう。



シーファー会議議長



米国研究者への講演



大宮の夏祭り

ネット選挙の責任者として

五月、大野もとひろ議員は、広報委員会の副委員長に任命され、解禁されたインターネット選挙の責任者になりました。

大野もとひろ議員がまず取り組んだのは、これまで力を入れてきたサイバー対策でした。大野もとひろ議員は、新たらしく開始されたネット選挙がサイバー上の不安を抱える場合には、

さらなるネット選挙の促進はないと考え、公党の責任としてまずは便利さと表裏

一体の関係にあるサイバー空間の安全確保を行うべきと考えたのです。結果として、すべての政党の中で最も強固なセキュリティ体制を民主党が構築できたのも、この考えに基づいていた。

また、ネット選挙の先進国である韓国に出張して調査を行う等、綿密な調査から始めるのも、研究者出身の大野もとひろ議員らしい手法でした。ネット上における熟議のための政策討論

型フォーラム「声!カフエ」を日本で初めて開設し、あるいはスマホ用にポスター!アプリを開発、さらには、選挙戦中の候補者の毎日のネット上の動向やSNS上のノウハウを具体的に指南し、報道の分析を候補者事務所に指示する等、きめ細かい対策がなされました。その一方で報道は、フェイクブックなどのSNSや動画を各党がいかに使っているか等、派手な面ばかりに焦点をあてましたが、民主党の地に足の付いたネット戦略の背後には、大野もとひろ議員が居たのです。

「大野もとひろ感謝の集い」開催!

■日時 平成25年10月25日(金) 午後4時30分より

【第1部】講演会 開会4時30分 【第2部】感謝の集い 開式 6時00分

■場所 ラフォーレ清水園 (大宮・氷川神社前)

〒330-0841 さいたま市大宮区東町2-204

電話:048-643-1234

■会費 10,000円

*この催物は、政治資金規正法第8条の2に規定する
政治資金パーティです。

※詳しくは、同封の申込書をご覧ください。



ポスター掲示のお願い

ご自宅、駐車場、アパート他どこらでもOKです。
下記事務所までご連絡ください。



大野もとひろプロフィール

昭和38年川口市で生まれる。慶応大学法学政治学科卒業、国際大学修士課程(地域研究専攻)

財団法人中東調査会などで研究活動のかたわら、テレビ、ラジオのコメンテーターを務めてきた。

外務省に入省、アラブ5カ国の大使館に勤務する。

地元川口市では中小企業を経営し、東京大学、青山学院大学、日本大学等で教壇に立つ。

2010年、参議院埼玉選挙区で初当選。前防衛大臣政務官、元ライオンズクラブ国際協会埼玉県のカバナー。現在、参議院外交防衛委員会理事、拉致問題特別委員会理事、議院運営委員会委員。頻繁に議員外交を行う。党内では、「次の内閣」

外務副大臣に就任。学生時代は、アメフト、柔道に熱中。趣味は音楽、落語。1男2女の父である。



● 大野もとひろ事務所 ●

〒332-0017 埼玉県川口市栄町2-1-11 ブランズ川口栄町パークフロント103

TEL: 048-271-5252

FAX: 048-271-5200

ホームページ <http://www.oonomotohiro.jp>

E-mail: sangiin.oono@gmail.com